

第32回
萩原朔太郎賞
受賞者

最果夕ヒ 展

愛を囁くのは世界の方で、
私たちはそれを二人で聞いている。
ここで、二人で真珠になろう。

Tahi Saihate
Exhibition

前橋文学館 2 階
企画展示室

2025年

6月7日(土)―9月21日(日)

開館時間→9時―17時(入館は30分前まで)

休館日→水曜日

観覧料 700円(高校生以下無料)

※障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名無料 ※朔太郎展示室もご覧いただけます

無料観覧日→6月7日(土) 展覧会初日、7月11日(金)～13日(日) 前橋七夕まつり、9月6日(土) 開館記念日



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

協力：東和銀行 新潮社 前橋中央通り商店街

第32回 萩原朔太郎賞 受賞者

最果タヒ

展

前橋文学館 2階
企画展示室

Event

①オープニングイベント

高校生による朗読会—好きだと思ふ瞬間、流れ星になる。

最果タヒの詩を高校生が朗読、群読します

日時：6月7日(土) 14時～ 予約不要

出演：県立前橋高校演劇部、県立前橋東高校放送部、
市立前橋高校演劇部、共愛学園高校放送委員会

会場：1階ロビー

②担当学芸員によるギャラリーガイド

日時：7月12日(土) 15時～ 予約不要

会場：2階企画展示室

③朗読会

愛を囁くのは世界の方で、私たちはそれを2人で聞いている。

俳優の青柳いづみが最果タヒの詩の世界観を声で表現します

日時：8月24日(日) 14時～ 先着80人 7月5日(土) 9時より申込み開始

出演：青柳いづみ (俳優)

(Izumi Aoyagi)

劇団「マームとジプシー」などの舞台を中心に幅広く活躍中。

最果タヒの「詩のレコード」、「詩のプラネタリウム」で朗読を担当しています。

会場：3階ホール ※当日有効の観覧券が必要

④朗読会

「恋と誤解された夕焼け」全43篇イッキ読み!!

受賞作「恋と誤解された夕焼け」に収められた全43篇を萩原朔美
特別館長や一般の皆さんがイッキに読みます

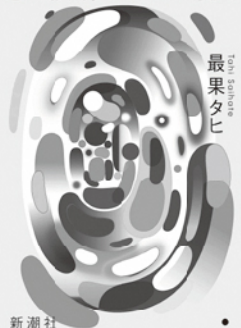
日時：9月21日(日) 14時～ 先着80人 8月9日(土) 9時より申込み開始

出演：萩原朔美 (前橋文学館特別館長)、一般参加者

会場：3階ホール ※当日有効の観覧券が必要

2025年6月7日(土)～9月21日(日)

恋と誤解された夕焼け



2024年5月 新潮社

受賞作「恋と誤解された夕焼け」
文芸誌「新潮」で連載された詩を中心に、
SNS発表作品を加えた43篇が収録され
ている。装丁は佐々木俊。

サテライト展示

7月7日(月)～7月25日(金) 会場：東和銀行本店

ふれあいバンク
TOWA 東和銀行

まちなか展示

6月7日(土)～9月21日(日) 会場：前橋中央通り商店街、広瀬川河畔

同時開催

・前橋文学館「『猫町』を包む(仮)」6月28日(土)～9月7日(日)

・アーツ前橋「新収蔵作品展(仮)」「コレクション+女性作家特集(仮)」7月19日(土)～8月26日(火)

会場＝アーツ前橋 TEL.027-230-1144

Access

◆電車 JR前橋駅北口から徒歩約15分/タクシーで約10分

上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分

◆バス JR前橋駅北口バスのりば

・3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)「中央前橋駅」下車徒歩約5分

・6番のりばから「萩原公園・嶺公園」行き「城東町二丁目バス停」下車徒歩約5分

◆自動車 関越自動車道 前橋ICから車で約15分

※広瀬川サンワパーキング(市営P城東)のご利用に際しては、
駐車券に割引処理をいたします。

●萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館 〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10

TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512

<https://www.maebashibungakukan.jp>



Profile

最果タヒ Tahi Saihate

詩人。2004年よりインターネット上で詩作を始め、2006年に第44回現代詩手帖賞受賞。2008年、第1詩集「グッドモーニング」で中原中也賞受賞。2015年、第3詩集「死んでしまふ系のぼくらに」で第33回現代詩花柳賞受賞。2017年、第4詩集「夜空はいつでも最高密度の青空だ」が石井裕也監督により映画化。2024年、第12詩集「恋と誤解された夕焼け」で第32回萩原朔太郎賞受賞。エッセイ集「きみの言い訳は最高の芸術」、小説「十代に共感する奴はみんな嘘つき」など著書多数。2018年、太田市美術館図書館での企画展に参加。2019年に横浜美術館で初の個展を開催。著名アーティストへの作詞提供のほか、ホテルとのコラボ企画「詩のホテル」や詩とプラネタリウムを融合した作品発表など活動の場は幅広い。

グラフィックデザイン 佐々木俊